

記事名：論文・論説・解説・調査報告・設計報告・工事報告・研究報告・報文・技術ノート
・会議報告

メインタイトル：ここに入力。欧数字は半角で

サブタイトル：—ここに入力—

飯田橋 太郎^{*1}・神楽坂 花子^{*2}・John SMITH^{*3}・津久戸 次郎^{*4}

原稿要旨(Abstract)を記載してください。原稿要旨を和文で執筆してください。ただし、原稿区分が「論文」の場合は英文にて原稿要旨を執筆してください。

なお、次の原稿区分の場合には原稿要旨が不要です。「巻頭言」「会議報告」「委員会報告」「サロン」「会員の声」「工事ニュース」

和文による要旨は1行あたり56文字とし、10行(概ね400字)以内としてください。原稿区分が「論文」の場合は、英文で10行(概ね120単語)以内としてください。

原稿要旨の後にキーワードを3～4つ記載してください。キーワードは和文とし、原稿区分が「論文」の場合には英単語で記載してください。キーワードのフォントの大きさは8.5pointとしてください。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 ① 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ② 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ③ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ④ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ⑤ 1 2 3 4 5 6

キーワード：原稿，執筆要領，書式，PC工学会 【和文要旨の場合の記述例】

Key words：Manuscript, Writing point, Form, Japan prestressed concrete institute 【英文要旨の場合の記述例】

1. はじめに 大見出し：2行取り

このファイルは、プレストレストコンクリート工学会誌への投稿原稿作成時に、頁数や図表配置をわかりやすくするためのテンプレートです。学会誌は、完全版下原稿ではありませんので、図表配置やフォントなど、これにより作成されたとおりに印刷されるものではないことをご確認ください。

このページは、タイトルページになります。

このテンプレートのタイトルページの設定は、著者4名の投稿原稿タイプ(投稿原稿は顔写真なし)です。この場合のタイトルページは本文の文字数が、26字×40行×2段となります。著者人数によって、下段の所属欄の行数が変わるため、1名減るごとに、行数が1行増えます。つまり著者1名の場合は、26字×43行×2段となります。

タイトルページに記載していただく内容は、次のようになります。

- 1) メインタイトル：22字以内が基本です。
- 2) サブタイトル：23字以内が基本です。副題は、「—○○○○—」のように「—」を記入しますが、文字制限の文字数にはカウントしません。
- 3) 著者名1：姓名の間を1字空けます。
- 4) 著者名2：下段欄外は英語表記

なお、設計報告や工事報告の場合、メインタイトルは構造物名、サブタイトルは原稿のトピックスを表記してください。題目および副題で使用する数字および欧文文字は半角としてください。文字制限の文字数は0.5文字としてカ

ウントします。

1.1 中見出し：1行取りで前の行もあけません。

見出しは、「1. 大見出し」、「1.1 中見出し」、を基本とし、これ以下は「(1) 小見出し」を用います。

さらに細かく分けたい場合には、「1.1.1 中小見出し」を用いてから、「(1) 小見出し」を使用してください。

本誌では、これ以上の細分化を不可としています。

正規表現(フォントとサイズは目安です)

1. 大見出し (MSゴシック 11point 2行取り)

1.1 中見出し (MSゴシック 10point)

(1) 小見出し (MSゴシック 10point)

特例

1. 大見出し

1.1 中見出し

1.1.1 中小見出し (MS明朝 10point)

(1) 小見出し

見出しの表現方法が異なっている場合には、校正段階で修正をお願いするか、編集時に修正を加える場合もありますので、あらかじめご了承ください。

1.1.1 中小見出し

この下に、(1)、(2)の項目がある場合のみ特例として使用可。

小見出しを使用する場合も、前の行はあけません。また、文字の強調もされません。

(1) 一番小さな見出し

*1 Taro IIDABASHI: 新宿大学大学院 工学研究科 教授

*2 Hanako KAGURAZAKA: プレストレスト(株) 技術開発部

*3 John SMITH: JP Concret Corp

*4 Jiro TSUKUDO: プレストレスト(株) 技術開発部

一番小さな見出しにおいても、前の行はあけません。

1.2 本文中の書式について

本文中で使用する書体はMS明朝体とし、英数字はTimes New Romanとしてください。本文中のフォントの大きさは10pointとしてください。

使用する句読点は、「。」「，」を使用してください。

箇条書きについて、列記するときは、1)，2)，3)，とし、文章内に続けて書くときは①，②，③，としてください。

数字および欧文文字は1/2文字分として記入してください。数字の位取りのカンマは、小数点と混同しやすいので省略してください（位取りは、印刷上の印字では、1/4字分空きとなります）。

1.3 図・表・写真番号の付け方

図-1，表-2などとし、さらに細かく図1-2のようには使用しません。

写真のみの場合には、写真とし、図や表と写真とを組み合わせる場合には、図，表として扱ってください。

1.4 図・表などのキャプション

図・表などのキャプションは、図・表を配置したい段落の直後に、前後1行あけて入力してください。

なお、実際に図・表をレイアウトする場合には、図タイトルは図の下に、表タイトルは表の上に配置します。

(1) 図・表の中を分けて表示する場合

図-1の中に複数個の図を配置したい場合には、それぞれ順に (a)，(b)，(c) を用いて示してください。

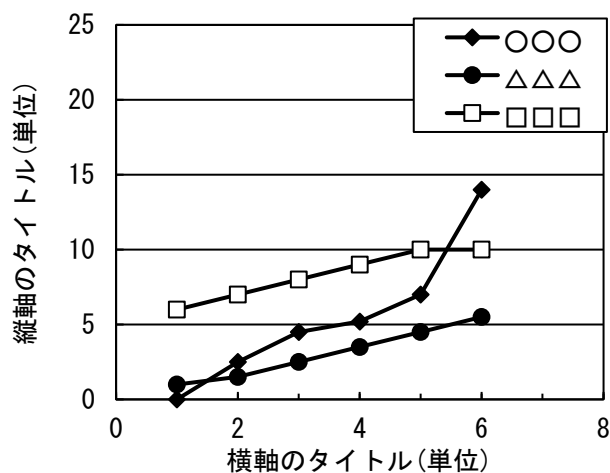


図-1 図キャプション配置の例⁰

なお、図・表などに文献番号を付す必要がある場合には、上の例を参照してください。

2. レイアウトに関する一般事項

図や表、写真などは、本文中に「図-1」などと示されたあとに配置することを原則としています。

頂きました原稿を元に編集担当会社で作業を行います。編集作業においてレイアウトが変更となることがあります。

ので、あらかじめご了承ください。

なお、変更となりましたレイアウトに不具合がある場合には、校正時にご指摘ください。

3. 2ページ目以降の設定

2ページ目以降は、26字×52行×2段 となります。

4. 記号の斜体と立体および数式

単位を表す mm や 数学記号 sin などは立体で表示します。これに対して、量を表す変数は、斜体で表示します。

Wordには、数式用のフォントが用意されていますので、数式用フォントを使用されると、著者の意図するところが明確になります。

また、重要な式には式(1)のように式番号をつけます。

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z \, dz \quad (2)$$

ここに、 G : 〇〇〇(単位),

5. 脚注・注の記載例

脚注は、文章内の補足説明が必要な用語、もしくは、読者に馴染みのない用語などに用いることとし、本文中の該当する個所の右肩にa)，b)，c) . . . と付し、文末の参考（引用）文献の次に、その説明を記して下さい。脚注の校正は編集担当会社で行います。

6. 用字用語

学会誌におきましては、常用漢字を使用してください。また、技術用語を中心に、統一した表記となるよう、編集作業を行っております。技術用語については様式（『プレストレストコンクリート』一般用語・技術用語）を参照してください。対応されていない場合は、修正して著者校正をお願いすることがございますので、あらかじめご了承ください。

7. 学会誌で避けるべき表現

商業宣伝に偏する記述は、避けてください。また、商品名、特許番号、NETIS番号などの記載を避け、必要に応じて一般的名称を用いてください。

工法などの名称で固有名詞的なものは、本文中で使用することは差支えありませんが、題目では内容が分かるような一般的名称を用いてください。

8. 転載についての注意

図・表・写真にも、著作権が認められています。他稿から引用する場合は、その出典を参考文献として明記するとともに、投稿内容に著作権の侵害がないことを著者ご自身で確認してください。

また、WEBで閲覧可能な地図などにも転載できないものがありますので、ご注意ください。なお、国土地理院地図は出典元を明記すれば転載・複製が可能です。

9. おわりに

章構成における最後の章には、「おわりに」と題した章を設けて、本文のまとめや今後の展望や課題など、本文の総括を示すようにしてください。

10. 参考文献の表記例

参考文献は、記事の最後に、

1)

2)

などとまとめて表示します。参考文献のフォントの大きさは9pointとしてください。

論文の場合、「著者名：題名，誌名，Vol.，No.，掲載ページ，発行年月」の順とする。

単行本の場合、「著（編）者名：書名，発行所名，掲載ページ，発行年月」の順とする。

WEB の場合，「インターネットのタイトル（入手先）：URL（閲覧日：2019.12.6）の順番で記す。

なお，参考文献は投稿時点で既発表のものに限ります。

参考文献

- 1) 飯田太郎，神楽花子：プレストレストコンクリートの力学的性能，プレストレストコンクリート，Vol. 1，No.2，pp.20-25，2005.11
- 2) 飯田太郎：プレストレストコンクリートの耐久性評価，プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集，Vol. 19，pp.225-231，2010.10
- 3) 日本道路協会：道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編，p.110，1996.4

【20**年**月**日受付】

<原稿書式 2025.09.02版>